

菅島採石場緑化監視委員会会議録（要旨）

会議の名称	平成 30 年第 2 回菅島採石場緑化監視委員会
開催日時	平成 30 年 10 月 16 日（火）14：00～15：45
開催場所	鶴田石材(株)菅島工場事務所 2 階会議室
事項書	1. 開会挨拶 2. 自己紹介 3. 緑化工施工状況及び視察場所説明 4. 現地視察 5. 意見交換 6. その他
配布資料	事項書 席次表 委員名簿 会議資料（P1～15）参考資料（P1～6）
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1 人
出席委員	立花充委員、中村孝委員、小寺兵吾委員、中村幸照委員、辻為康委員、木下和行委員、内田清隆委員、安藤努委員、沼本晋也委員
関係者	鶴田石材(株)（緑化工事業者として）、中井主幹（県オブザーバーとして）
欠席委員	吉田一喜委員
事務局	総務課 寺田課長、中村係長、寺田係長

1. 開会挨拶

○立花副市長より挨拶。

2. 自己紹介

○各委員が自己紹介。

○中村事務局員より欠席者の報告及び配布物の確認。その後参考資料について説明。

3. 緑化工施工状況及び視察場所説明

○鶴田石材(株)より資料に基づき説明。

委員：5/29 の委員会説明時の資料と今回の実績報告に差異があるのでその理由の説明をお願いします。

事業者：施工時において、G L30mに自生した植物が確認できたので、無理に植付することを止め、その分G L70、60mの補植数をより充実させた。トータルの植付数に変更はない。あと、前回問題視されたオオシマザクラだが、あくまで購入まではこちらで手配したが、植付の段階ではこちらとしては関与していないので、今回の実績報告からもその分は削除させてもらった。

4. 現地視察

5. 意見交換

委員：客土以外にも原因があるのかないのか定かではないが、活着率の悪いところがある。ただ、採石場とはいえ、この場所は伊勢志摩国立公園内ということもあり、景観の問題は避けて通れない。斜面（法面）の被覆をどうやって実現していくのが今後の課題。

委員：先週大山地区 70mの小段を調査し、アキグミ、トベラ、ネズミモチ、シャリンバイの生育を確認できたが、ウバメガシやスダジイは確認できなかった。アカメガシワやヤマハギなど先駆的な植物も生育していない状況。一番元気そうだったのが視認した限りではアキグミ。下の方の小段はパーク材を多めに措置したせいか、風などで活着したカラスザンショウがある程度生育しているのが確認できた。ただ、70mでは植付したところだけが土があるので生存できてもそれから広

がる環境にないので、表土について下の小段のような措置が必要ではないか。このままではアキグミの実が地面に落ちてても活着しない。生育の基盤となるべき土壌をしっかりとしないといけない。樹種の選定も重要。アカメガシワやヤマハギは苗からではなく、試験的に種を蒔いてみてはどうか。あと東山について、先週現地確認したかぎりだと、ヤマトタチバナがある程度生存しているのを確認できたが生育は良くない気がした。今後植栽を行う法面や小段についてもアキグミなど先駆的な樹種でないと生育が良くない気がする。

委員：土と水の観点から法面を見て、礫の隙間に若干の土壌が確認できる。土が保持されていれば次の植栽に繋がり今後の緑化の推移を見る要素のひとつになってくる。今日は複数箇所を確認したが、急傾斜であっても礫と土の定着次第で植生侵入が全く不可能とは言えない。逆に法面角度が30度であるGL80m付近で植物が根付いている箇所とそうでない箇所が見られた。元々の水路が関係しているのではないか。掘削する前の地山の地形と関連が考えられるが、今後激しい雨が降ったときに土砂が流されていく様子や流路を是非観察してほしい。

(※会議室内にGL80m以上の緑化工の写真があったのでそれについて事業者より当時のことを説明。)

委員：過去の工法がヒントとなるかもしれないので確認を。

委員：緑化工の計画は市にも確認してもらっているのか。

事業者：地元町内会とも協議のうえ、市と国に毎年度の計画を提出している。

委員：台風などの豪雨により、緑化計画の植栽数がどの程度被害を受けたか把握しているか。

事業者：データはとっていない。

委員：豪雨により苗が流れた時はどうするのか。同一年度内に補植するのか。

事業者：例えば今年度は現地を確認したうえでGL70mと60mにそれぞれ補植をした。他の段も現地確認し、補植が必要と判断すれば翌年度の6月に実施する予定でいる。

委員：補植が必要な苗数は事前に把握しておくべきだと思う。あと、これから冬になると北西の風が強くなる。散水には力を入れてほしい。

委員：土があるところとないところの被覆の差が激しい。やはり客土が重要であると思う。法面の土木工事に種子を張り付けする工法があったと思う。1㎡でいいので試験的に実施してみてもどうか。

事業者：懇意にしている緑化業者とは違う業者に相談し、現地も確認してもらって緑化工についての提案を求めてみたが、活着させる自信がないとの回答だった。よって、今年度は懇意にしている緑化業者とも相談し、試験的にだが大山の岩部分に東山と同様の吹付をさせてもらった。

委員：いろいろとチャレンジしてみる事が大切。あと先程も意見があったが粉塵対応にも十分に気を配ってほしい。

事業者：粉塵対策として散水車を新規購入した。砂塵を抑えるためより短時間かつ広域に散水する予定。

6. その他

(特に意見なし)